

小樓清風記

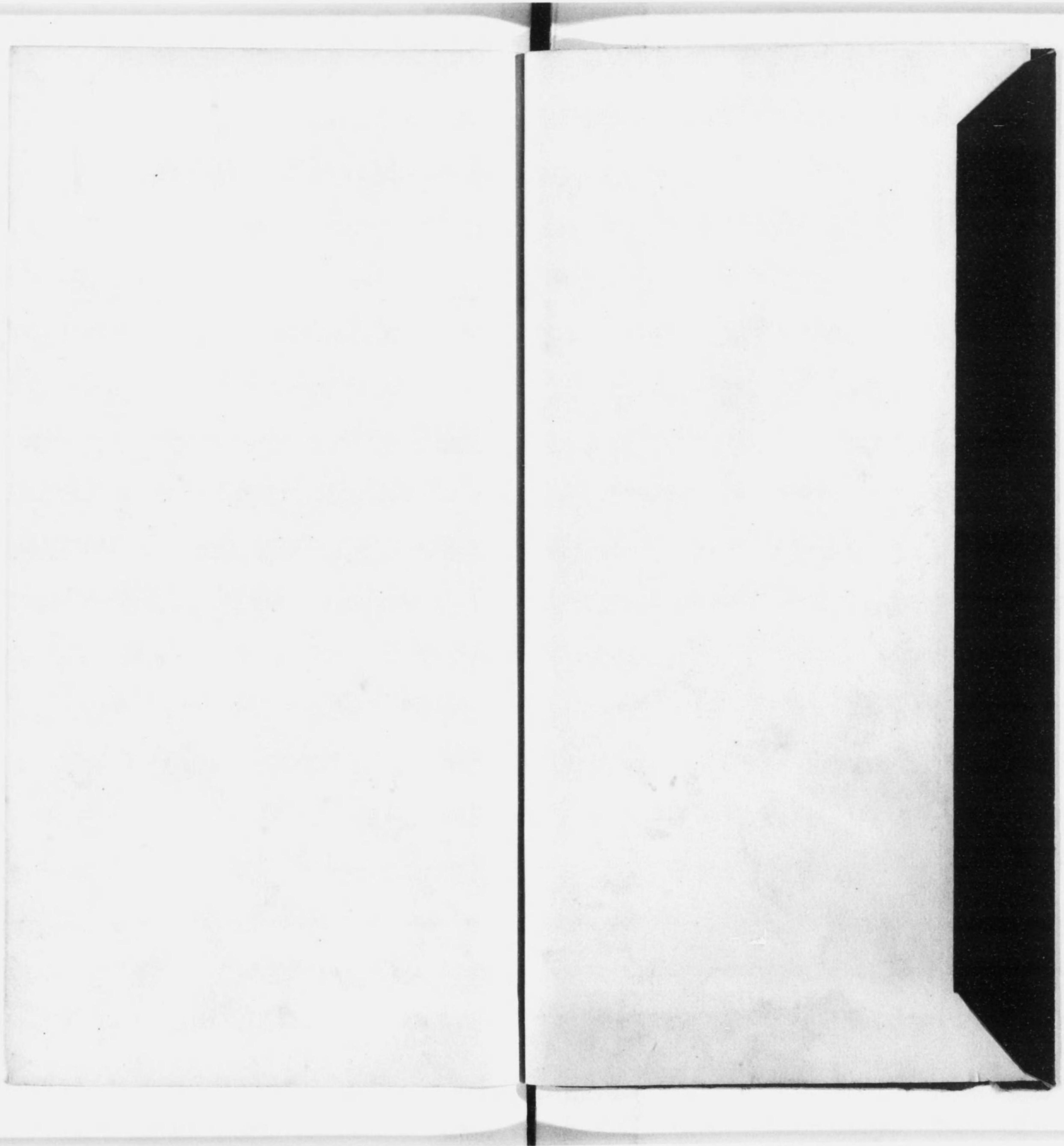
特257

816

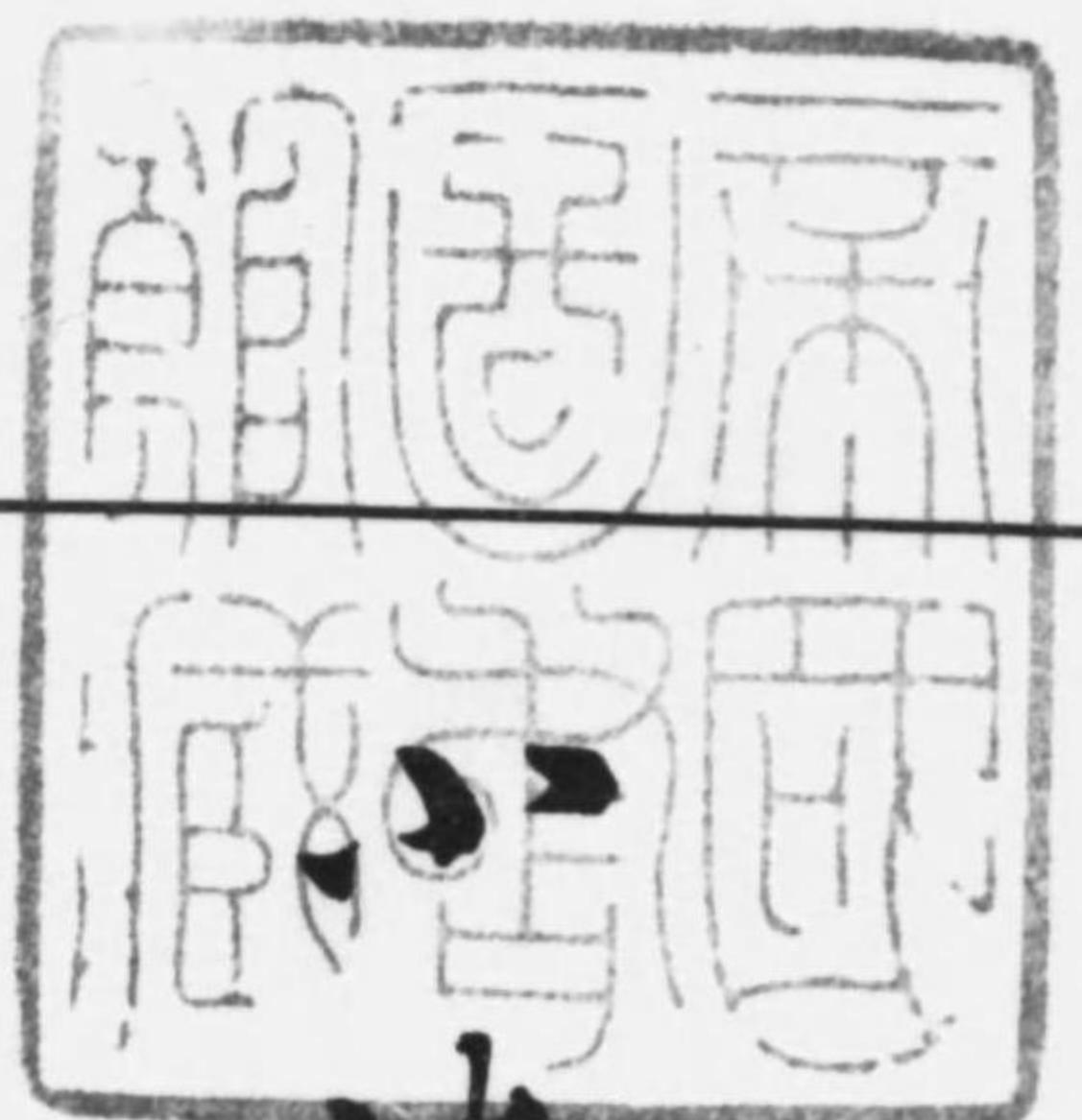
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
mm cm

始



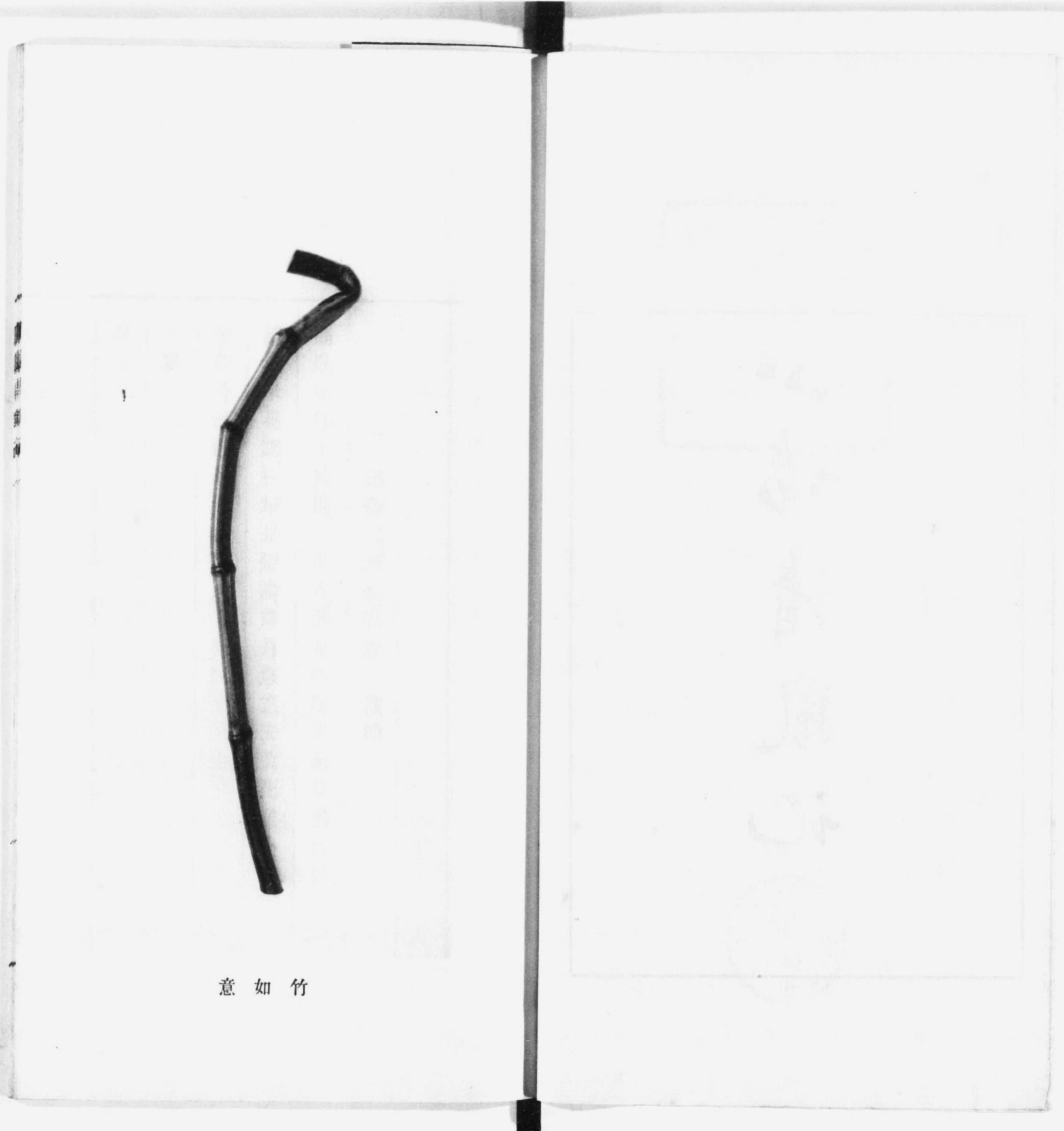


特 257
816



楊清風記





意如竹

小樓清風記

高臥小樓上，睥睨一世人。
問是何所寄，幽趣獨自真。
真境未易語，枉稱是隱淪。
歲月悠悠去，黃花送小春。

今朝簷滴靜，最似葛天民。

默

二、澤菴試毫元和申 無落款

動^{セハ}指大虛^ニ春已^ニ回、豁^ニ開新地^ヲ立^ニ宗來

我門富貴與他異、八面清風屋裏財

衲僧ノ一指ヲ大虛ニフレハ春モ回ルソ、四時ノ行ハル、モ衲僧一指頭上ノ物ヨリ出ソ、二ノ句ハ當寺新地ヲ開ホトニ始テノ正月ナル故ニ如此云也、宗ヲ立スルモ一指頭ノ物ヨリ建立シタ物ソ、サテ新地建立シテ我門ノ富貴ハ世間トハチカウタソ、八面カラ清風力吹來ル是カ屋裏ノ財寶ソ、我宗ハ無一物ソ、清風

ノ吹拂盡タル處ニコソ七珍萬寶ハ備タレ、世間ニアルト思フ財何力始終スルソ、アル物ハ皆無物ヨ、ナキコソ萬寶ヨ、凡夫ハシラヌ事ヨ、

東海和尚紀年錄ニ元和六年庚申^ノ師四十八歲^ノ到^ニ但州^ヲ縛^ニ茆^ヲ於宗鏡^ノ後山^ニ而屏處^ス扁^{シテ}曰^ニ投淵軒^ヲ衣孟之外只有一鑄兒^ヲ手自炊米成粥以給^ニ晨夕^ヲ作^ニ菴居^ヲ和歌百首寫^ニ閑寂之興^ヲトアリ當寺トハ投淵軒ナルヘシ投淵軒ノコトハ但馬出石ノ人故櫻井勉翁筆スル所ノ「投淵寫興」ト題スル冊子ニ詳ナリ、思ヒ起ス先

年翁多年百方搜索得ル能ハサリシ菴百首某家古
書畫競賣品中ニアリ(但シ和尚ノ自筆ニハアラス
今澤菴和尚全集ニ收ム)寫シテ翁ニ贈ル、翁驚喜屢
書ヲ裁シ又寫興中ニ記シ、終世一見スルヲ得サル
乎ト殆ント斷念シタルニ長壽八十六歳此喜ヲ得
タリト縷述セラル、元旦試毫ノ幅ハ翁ニ示スノ機
ナク既ニ幽冥界ヲ隔ツ遺憾渺カラサル也

翁入佐遺稿ノ一節トシテ記スルコロニ云「我終ニ
サヒシキ事ヲ知ラス、問クル人ノ歸レハアラ閑ヤ

面白ヤト思ヒ、日暮レヌレハ今ハヤ間人モアラ
シ我身ニナリタリアラ閑ヤト思、雨モ月モ閑ナレ
ハ我雨我月ト思ハル、ナリ、然リトテ此閑ヲ樂テ
カク閑居スルニハアラス、少シ心ニヨル所アリテ
カク閑居セリ、若シ閑ヲ樂テ山居ヲ好マハ世人ノ
富貴ヲ好ニ同シ、蓼ノ辛キヲ食フ虫アリ甘草ノ甘
ヲ好ク虫アリ、辛ト甘トハ其身ニアリ樂ムトコロ
同シ、然レハ道ヲ捨樂ヲ取ハ佚樂ノ人ニ同シカル
ヘシ、富貴ヲ好テ人ニヘツラヒ、佛法ヲ賣テ渡世ノ

營ヲシ佛祖ノ道ヲ泥土ニ墜サンヨリハト思テ、樹
下石上ノ栖居セソ人ハ樂ヲモトメ山ニ入ルニハ
アラシ」ト

幽谷ノ澤菴ハ之ヲ投淵ニ見、喬木ノ澤菴ハ之ヲ東
海ニ見ル、生キテ優遇ノ拘束ニ惱メル者澤菴アリ、
死シテ錦繡ノ纏縛ニ惑フ者良寛アリ

澤菴書畫遺品收藏數十點、一點ヲ加フルコトニ玩
物喪志ハ是老漢ノ意アラストシ、深ク自ラ之ヲ恥
ツ、時恰モ品川ニ近ク新居ヲトスルニ際シ此幅ヲ

得、即時十數年蒐集ノモノ一切ヲ舉テ之ヲ拋ツ

三、澤菴消息(原文平假名) 無落款

御歌ノ心ハ心ヲステハテヌ山住ハカヒナシ、身ヲス
ツル山ハアリトモ心ヲステヌハイカニソヤ、心ヲス
テハテムハイカニトノ御心持ニ候哉ト承候、心ヲス
テハツルトハタヽ身ヲワスルニテ候、古連歌ニモ
イトヒハテナハ世ニモ交ハレ

カルクモツ身ニナストガハヨモアラジ

トツキ申候、前句ノ心ハ世ヲイトヒハテタル人ナラ
ハ世ニ交レト也、一向ニマタイトヒハテヌニヨリテ

此風情アル世ニアリテ詮ナシ深山ニモト思フナリ、
身ヲ忘レスレハ交リテモ苦シカラヌトナリ、付句ノ
心ハ身ヲカルクサヘモテハ世ヲヘツラウトカモナ
キ程ニ、身ヲ忘レ身ヲカルクモタハ世ニ交リテモト
カナキト付申句ニ候カ、惣別身ヲ忘ル、ト申事大切
ノ道ニテ候、カナラスツツリヲキテモハツカシカラ
ヌト忘ル、ハカリニテモナク、ニシキヲキテモ錦ヲ
キタト思フ心ヲ忘ルレハ、綴キタル人モ錦キタル人
モ一ツナレハ是ソ身ヲ忘レタル人ナリ、コレラノ人

ハアラソウ人ナク千人ノ中ニ立テモカタキナシ、山ニテモ世ニテモ禍アラシト存申也

山トテモ世ノ外ナラススツルテフ心ノハテハ身ヲソ忘ル、

ニゴリナキ心ノ奥ノ山水ハウキヨノチリヲイカテウクヘキ

シハシタニ身ヲ忘レ得ヌ人ナラハワケ入ル山モウキ世ナラマシ

カヤウニ申上候

別ニ無落歎筆者不明ノモノアリ

ヨロツノコトサワラスカ、ワラス、ワツライナキ身トナリ、世ヲウシトモ思ハテ靜ニ坐ヲシムル、折カラハ一枝ノ花ヲイケ一種ノ香ヲタキヨキ茶ナトノミ、古キ文ヲ友トシ、若シ心アラム人ノトヒ來ルコトモアラハイニシヘ今ハノ道ノカタハシヲモ語リ慰マムハコヨナウノドケシヤ、人コトニカ、ルワサヲナサムコトハ山ノ奥林ノ中ニ入りテコソトイヘト、名利ノ心ハナレスハイカテ安カルヘキ、只市ノ中ニス

ムトテモ心カラナルヘシ、アナカチ所ヲエラヒ姿ヲ
アラタムヘキニアラス、僧ハ僧ノマ、俗ハ俗ノマ、
柳ハ綠花ハ紅

迷ハヌモ迷フモ同シ源ノ心ヲミレハ只アリノ

マ、

名利念ヲ絶ツモ 天恩懷ヲ離レス、危局ヲ察スル
ノ眼アリテ濟世ニ資スルノ力ナシ、只能ク國ト憂
ヲ共ニスルヲ得ルノミ今ヤ隱淪漫ニ禪語ヲ弄シ
保身自ラ安シトスヘキ秋ニアラサルナリ

澤菴云「人ミナ朝恩ヲ輕ンスヘカラス、普天ノ下朝
恩ヲ得サルモノナシ、帝畿ノ内ハ 上一人在マス
ユヘニ、今ノ世道ナシト雖モイサ、カ道アリ、畿外
ノ國遠境ノ民ハ朝ノ光リ遠シ、悲ムヘキナリ」ト下
剋上ノ勢禍根ヲナシ、政權次第ニ下移遂ニ 皇室
ノ式微ヲ致セルハ鎌倉室町以降歴史ノ證スルト
コロ、僧澤菴ヲシテ此嘆アラシム

四、村瀨榜亭梅花二首

風格何曾贊^テ一辭^ヲ獨拋^テ春色^上寒枝^ニ海棠雖艷元凡種^非
爲渠顛^{スル}更爲誰^{ニセシカ}放翁抵^{レマテ}死^ニ爲梅顛^{スル}千首詩成花鬪研^{レハ}五

百年來香未斷^レ小詩聊結古人緣

盟友某氏贈ル所ナリ

「山中人饒舌」^ヲ見ルニ竹田ハ榜亭ノ詩、書、畫、共ニ之
ニ傾倒ス、小竹ハ必シモ然ラス。書法、關紐透^ア入畫中
者、唯榜亭先生所作之竹爲然云々^ヲ評シ、公毎抑^ヘ人
所喜^ヤ揚^ク人所忽^{ニスル}亦顯微闡^ク幽之意^ヲト云ヒ、先生素^{ヨリ}善坡

書云々^ヲ評シ「榜亭書非不^レ佳、恐馬東坡」ト云ヒ「近有^ニ
榜亭先生漁歌子詞、調已溫雅、詞亦巧致^ヲ「榜亭翁」三
詞絕調、然猶有跡可追至^レ公則詩餘中之猶龍」ト評ス
ルカ如シ、然レトモ若シ中華ノ人榜亭ノ作ニ寓目
スルアラハ其竹田ニ與スル疑ヲ容レサルナリ
遇ト不遇トハ書畫界ニアリテモ亦免レサル所今
暫ク之ヲ措キ、顧客概^ネ耳食ノ人一隻眼ヲ有セス
シテ逸材ノ逸品ヲ顧ミス、徒ニ附和雷同シテ名流
ノ疑品ニ垂涎^{フカ}ス、此輩單ニ樂ム所ヲ知ラサルノミ

ナラス、或ハ備荒策ヲ誤テ悔ヲ老後ニ貽シ、又ハ遺族ヲシテ石ヲ懷テ玉トナシ悲境ニ泣カシムルコト、往々ニシテ見聞スル所ナリ

五、村瀬太乙七絶一首

飛去_フ飛來_テ遊_{コト}自如_{タリ}青田漠々雨晴_ハ餘_ハ善哉白鷺知_ヒ吾分_ハ不欲江湖窺_フ大魚_ヲ

古語云閒暇出於精勤、恬適出于祇懼、無思出於能慮、大膽出於小心、今一語ヲ加ヘントス曰ク、逸樂出於少慾_一

衣食足ラスシテ制ヲ庸人ニ受ケ、欲火息マスシテ自ラ其身ヲ焼ク、江湖大魚ヲ窺フ者假令免レテ恥ルナキモ、安ンソヨク自如タルヲ得ンヤ

嘗テ戯文一節ヲ草ス曰ク、坐シテ古今ノ成敗ヲ察
シ臥シテ名山大川ニ游フ、門閉チ眠濃ニシテ五柳劣紳ノ

(傲孔丘)

人ノ三分ノ計ヲ問フナク、產淡クシテ五柳劣紳ノ
匹ナラスト雖モ儘竹ヲ買テ餘アリ、或ハ晚涼ヲ趁
テ筇ヲ郭外ニ曳キ、興盡レハ無蓋ノ漁車ヲ驅テ歸
ル、衣ヲ千仞ノ岡ニ振フノ慨ナシト雖モ亦自適ノ

一法ナリ

六、六然語

自處超然處人藹然無事澄然有事斬然得意淡然失意

泰然

畏友某氏ノ揮毫ニカゝル、方竹齋談古錄中ノ語ナ
リ、各語人ニヨリ實踐ニ難易アリ、自處超然ノ人必
シモ人ニ處スル藹然タル能ハス

馮夢龍曰ク余少負情癡、遇朋儕必傾赤相與、吉凶同
患、聞人有奇窮奇枉、雖不相識、求爲之地、或力所不及
則嗟嘆累日、中夜展々不寐、見一有情人輒欲下拜、或

無情者志言相忤、必委曲以情導之萬々不從乃已、

自處超然馮俠氣熱情ヲ失ハサルハ難哉

因ニ記ス、澤菴涙ノ説アリ曰ク、人ノ眞實ハナニニ
テ知ヌヘキ、涙ノ外アルヘカラス、ソノ事ヲ深ク思
フ心動キテ、足手ノ爪ノ先マテコタヘテ、情ニテセ
メ出セル水ナリ、五體ヲ繩ニテマキシメテ出サン
トストモ、スマル水一滴出ヘカラス、情力ノツヨキ
コト不思儀ナリ、涙ヲ流ス端的ニ偽アルヘカラス』
ト、馬謾ヲ斬テ涙ナクンハ人誰カ之ニ服セン、有情

ノ人斬然、斷シ得テ過チナカルヘシ
蓋世ノ功勞モ一個ノ矜ノ字ニ當リ得ス、勢家ノ淡
然タルヲ望ム、先ツ自ラ新ニシテ捲土重來ヲ期シ、
政客ノ泰然タルヲ望ム、去來ノ勢ヲ執テ權トナス
毋レ、去來自ラ其理アリテ存ス

七、竹如意

茶人故某氏所贈、小樓殘存唯一ノ古董也

心氣平ナラサル時之ヲ立ツルコトヲ試ム、足ノ之ヲ踏ミ手ノ之ヲ舞フヲ知ラサル時立タス、怒リ心

上ヨリ起リ惡ミ肚邊ニ向テ生スル時立タス

立チ得タル時心氣既ニ平ナリ、以テ喜時ノ言信ヲ

失シ、怒時ノ言體ヲ失スルナキヲ得ンカ

俱胝和尚凡ソ問フ所アレハ只一指ヲ豎ツ難葛藤

タルヲ免レス、予輩事ヲ省キ事ナキ所ヲ行カント

スル者竹如意ニ負フ所尠カラス

八、書籍

異書奇籍殆ント跡ヲ絶ツモ尙鷄肋捨ルニ忍ヒサ
ルモノ若干ヲ存セサルニアラス、老眼讀書ヲ妨ケ
ス至幸ナル哉(坪内逍遙翁ノ藏書一切ヲ早稻田圖
書館ニ贈ルトテ「ナマジヒノ心ノ糧」^{カゲ}ヲ絶チテコソ
マコトノワレハ生クヘカリケレ」ト咏シタル如ク
ナル能ハサルハ未タ讀書ニ代ルヘキ消閑ノ法ヲ
得サレハナリ)

王侯富豪ノ輩百方快樂ヲ馳求シ物々備ハラサル

ハナシ、獨リ書籍ハ概貧ニシテ乏、眞ニ讀書樂ヲ解
スル者寥々曉天ノ星ノ如シ、終世人間第一ノ寶庫
ヲ窺ハスシテ北邙一片ノ煙ト化ス、憐ムヘキ哉
一國ノ語ニ通スレハ則チ一寶庫ヲ開クノ鎖鑰ヲ
得、多ク鎖鑰ヲ有スルノ人眞ニ羨ムヘキ哉
近時書誌ノ學風行、必シモ不可ナリトセサルモ、此
種ノ研究ハ寧ロ人世ノ秋期以後ニ讓リ、青年ニ當
リテハ鎖鑰ヲ得ルニ急ナランコトヲ切望ス

小樓清風記終

跋

人アリ問テ曰ク津阪東陽譯準笑話ニ「負郭ノ茅亭樹竹蕭散書案帙ヲ攤^{ヒロ}ケ、茶鼎烟揚ル、客籬隙ヨリ窺ヒ見其雅尙ヲ健羨ス、忽チ其人庭ニ下ルヲ見ル、大ニ欠伸シテ曰ク、嗚呼惟金之欲哉^{スル}トアリ、汝モ亦此漢ノ亞流ニアラサル乎

對テ曰ク「笑府」ニ云「一鬼托生ノトキ冥王判シテ富人トナラシム、鬼曰ク某ハ富ヲ願ハス、只一生衣食ニ不足ナク、是モナク非モナク、香ヲタキ茶ヲノミ日ヲ過

キハ足ルト、王曰モシ汝銀ヲ望ムナラハ又幾萬兩授ケン、其様ナ清福ハ汝ニ許サレヌト、又一説ニ、鬼右ノ如クイヒタレハ、王坐ヲ下リテ云、其様ナ安閒ヲ受用ノ所在アラハ千萬我ヲモ挈^{トツ}帶^レテ行テクレヨト予齡古稀ニ近ク想フニ冥王ト相見ノ期遠カラス、彼ノ忌ム所トナラサル一鬼ノ如ク談笑胸懷ヲ暢ルヲ得ハ憾ナシ、逝ク時物ノ能ク隨フナキヲ如何セシ

昭和十二年一月

醉竹軒主人識

(印行五十部)

昭和十二年三月十五日印刷
昭和十二年三月二十日發行 限印五十部

著者 神山閔次

東京市芝區白金銀町七十三番地
東京市神田區神保町一ノ三十四番地

行作者 神山閔次

東京市神田區神保町一ノ三十四番地

印 刷 者

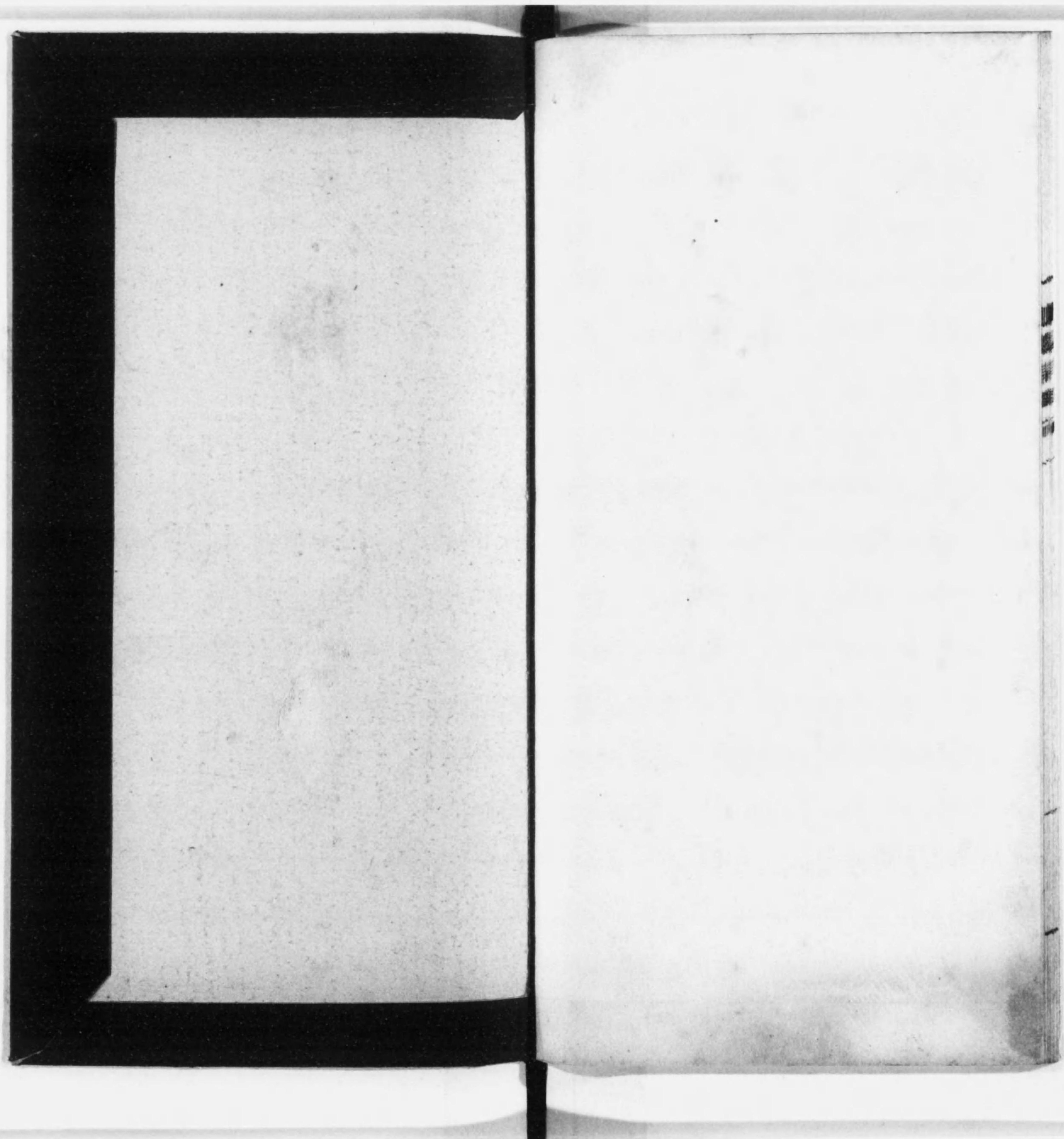
尾藤光之介

印 刷 所

株式會社開明堂



334



終